

放課後等デイサービス自己評価 結果報告 H28年2月

野花

	チェック項目	はい	どちらとも 言えない	いいえ	改善目標 工夫している点等
環境 体制 整備	1 利用定員は指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%			法定基準 33㎡以上。 野花 55.45㎡（面談室・事務所・洗面除く）
	2 職員の配置や専門性は適切か	100%			研修の機会を捉え適性にあったスキルアップを図っている
	3 事業所の設備等は子どもの障害への配慮が適切にされているか	80%	20%		全ての障害特性・知的レベルに対応することは難しいが段差等を、安全に機能開発につなげ、小さな玩具は誤嚥に細心の注意を払っている
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	100%			支援計画を現場で実行し半年ごとに現場スタッフが話し合い評価をだして改善点を次の計画に反映させている
	5 保護者向け評価表等アンケート調査を実施して保護者の意向を把握し、業務改善につなげているか	100%			今後も保護者評価等を実施し、出た意見を真摯に受け止めていく
	6 この自己評価の結果を、お便りやホームページ等で公開しているか	100%			ホームページ及びお便りに掲載
	7 第三者による外部評価を行い評価結果を業務改善につなげているか	100%			行政・実習生の受け入れ・見学会等を行い研鑽に勤める
8 職員の資質の向上を行う為研修の機会を確保しているか	100%			28年度は 感覚統合・発語音楽は定期的に法人内研修を行い、SST・相談業務関係は外部研修に研修費を付け受講	
適切 な 支 援 の 提	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で個別支援計画を作成しているか	100%			個々のこどもの 希望・発達段階の理解のために多面的なアセスメントを実施し 個別支援計画につなげている
	10 子どもの適応行動の状況を図る為に、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%			年齢を考慮し 複数のアセスメントを使用
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%			平日は時間がとりやすいので長期休みの活動を年間活動計画の形骨格作りをしておき柔軟に対応できるように配慮していきたい
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			根幹になる指針は保ちながら 季節やスタッフの人員配置を考慮し変化させている
	13 平日、休日、長期休暇に応じ、課題を決め細やかな支援を行っているか	80%	20%		地元の学校の年長の児童が下校時間等の関係で課題が不消化になることがあるので、より綿密な計画を心がける
	14 子どもの状況に応じ、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成しているか	100%			行っている
15 支援開始前に職員間で必ず打合わせをし、支援の内容や役割分担について確認しているか	20%	80%		活動の直前に加わる非常勤スタッフにも分かりやすいような流れにしていきたい	

供	16	支援終了後には、職員間で支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	100%				
	17	日々の支援に関し正しく記録をとる事を徹底し、検証改善につなげているか	60%	40%		日報（活動記録）を利用後に全員の児童につけている。検証改善にさらに繋げたい	
	18	定期的にモニタリングを行い個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%			保護者の方からの要望があれば期間にこだわらず相談・アセスメントを行っている。定期の練り直しは半期ごとに行っている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	100%			時期をずらしながら 全ての項目が活動に盛り込まれるよう配慮している	
関係機関や保護者との連携	20	学校との情報共有（年間予定下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡等）を適切におこなっているか	100%			常滑市の療育関係者連絡会に所属し 関係機関とのスムーズな連携を心がけている	
	21	相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した者が参画しているか	100%			主に児童発達管理責任者が参加している	
	22	就学前に利用していた保育園児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	80%	20%		市や事業所にもよるが 可能な限り行ってきたい	
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	100%			常滑市内の児童は市の社会福祉協議会との連携がしっかり取れていることもあり スムーズな移行が出来ている	
	24	支援困難なケースでは専門機関と連携し助言や研修を受けているか	100%			OT・ST・児童精神科医等より 適宜助言 研修等を受けている	
	25	利用者以外の子どもと関わる機会はあるか	40%	60%		日常的には難しいが 行事や外遊びの際などを良い機会としたい	
	26	自立支援協議会へ積極的に参加しているか	100%				
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について共通理解を持っているか	80%	20%		送りの際などに 可能な範囲で状況説明を行っているが、多忙な保護者のかたもおられ 活動報告で活字の形のみになっている場合もある	
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	80%	20%		希望者される方には 無料で行っている（教科書代のみ実費）	
	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%			年一回必ず行っている	
	保護者への説	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	80%	20%		全てのスタッフが 自信をもって行えるよう 頑張りたい
		31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%			親の会の立ち上げに伴い 法人として出来る限りのバックアップを行いたい
32		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%			苦情解決マニュアル等の整備と共に 誠意ある対応に勤めていく	

明 責 任 等	33	定期的にお便り等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%			毎月のお便りに加え、必要な時には随時発信している
	34	個人情報に十分注意しているか	100%			鍵付きのロッカーでの書類保存 スタッフの守秘義務誓約書の記入
	35	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の為の配慮をしているか	100%			
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っているか	100%			運動会・祭り等の企画
非 常 時 の 対 応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	100%			各種マニュアルの整備と定期的な研修を行っている
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%			防災担当者がおり 総合的な防災対策を行っている
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%			虐待はもちろんのこと 職員がイライラする状況に至ることがないように療育・対人スキルの向上に努めている
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	100%			虐待及び身体拘束防止マニュアルに基づき 危険の可能性のあるケースでは事前の十分な説明を行い同意のもとで安全の確保を行っている
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%			以前はいたが 現在は特別な除去を必要とする利用児はいない
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	80%	20%		事例集という形にはなっていないが 「ヒヤリ・ハットファイル」により振り返りを行っている
	43	身体拘束を行った場合の必要な記録を取る為の様式が用意されているか	100%			様式はあるが現状まだ使用事例はない
	44	遊具・施設等の安全点検を定期的に行い必要な措置がされているか	100%			定期的な安全点検を行い 必要に応じ補強・交換を行っている

PDCA サイクル → プラン（計画）・ドー（実行）・チェック（評価）・アクト（改善）を一つのサイクルとし、改善から次の計画に繋げていくもので、医療・福祉現場で推奨されている流れです。

SST → ソーシャル・スキル・トレーニングの略

社会で生きていくために必要な『人付き合いのコツ』  
を身に着けるための仕組み

OT → 作業療法士 ST → 言語聴覚士

感染症等 各種マニュアルをご覧になりたい方はスタッフまでお声掛け下さい  
いつでもご覧いただけます。